



2009年2月27日

アンドレ・プレヴィン
NHK交響楽団 首席客演指揮者に就任
2009/10 シーズンから

NHK交響楽団(所在地:東京/理事長:野島直樹)は、指揮者、ピアニスト、作曲家として多方面で世界的に活躍するアンドレ・プレヴィン氏を、2009年9月から首席客演指揮者に迎えることになりました。

クラシック界はもとより、優れた音楽家として広く一般にもその名を知られるプレヴィン氏は、これまでに、ロンドン交響楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニック、ピッツバーグ交響楽団、ヒューストン交響楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団などで音楽監督や首席指揮者を歴任。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団やゲヴァントハウス管弦楽団など、世界一流のオーケストラへの客演やレコーディングも数多く行っています。

プレヴィン氏が初めてNHK交響楽団のステージに立ったのは、1993年8月のこと。NHKホール開館20周年を記念したこの演奏会では、ガーシュウィン、バーンスタインなどの作品で、超一流のアーティストとして、その才能を遺憾なく発揮しました。その後、1995年、1998年、1999年と共演を重ね、2007年9月の定期公演では、モーツァルト・プログラムで弾き振りを披露、その演奏が高く評価されました。

今後は、プレヴィン氏による自作の演奏などを含む多彩なプログラムで、N響の魅力が一層引き出されることが期待されます。またテレビ、ラジオを通して、数多くの音楽ファンの皆様に、プレヴィン氏との新たなコラボレーションを感じとっていただければ幸いです。

Message from Maestro André Previn

NHK交響楽団首席客演指揮者として、日本で演奏できることを大変嬉しく、心待ちにしております。日本でのこれまでの思い出は、尽きることがありません。日本の聴衆の方たちと同じ時間を共有できることは、私にとって大きな喜びです。演奏中は静かに耳を傾け、終わると一気に大きな拍手をして下さることがとても嬉しいのです。

N響とのコンサートも待ち遠しいのですが、リハーサルもまた心躍るひとときです。オーケストラの皆さんはとても親切で思いやりがあり、集中力も高く、多くのすばらしい演奏会が出来ると思います。レコーディング、それにテレビ中継なども楽しみです、東京だけでなく、京都など他の都市でも演奏したいと思っています。海外へのツアーも、是非行いたいと考えています。このオーケストラ、そして日本の音楽環境のすばらしさを世界にも見ていただきたいからです。

現代の作品も古典のものも演奏していきたいと思っています。N響にはこれは出来る、これは出来ないなどという制約は全くありません。N響がブラームスも武満も、どんな曲でも弾きこなしているのを、私も聴いていますから。だからこそ、演奏会だけでなく、リハーサルも待ち遠しいのです。日本語も出来るだけ覚えたいと思っています。会話をすべて訳して頂いたら、楽員のみなさんが嫌になってしまいますからね。

良いオーケストラを指揮することは、数多くの演奏家と室内楽を奏でるのに似ていると、私は常に思っています。オーケストラと1人の指揮者という関係ではなく、全員が一体となってこそ演奏があるからです。N響と演奏するときには、いつもこうした気持ちになります。みんなが一体となって、同じ理解と熱意をもって演奏できるからです。N響は、ただただすばらしいの一語に尽きます。

私を首席客演指揮者にお招き頂いた事に深く感謝し、最善を尽くす所存です。もうすぐ日本の皆様とお目にかかれるのを楽しみにしております。

2009年2月
アンドレ・プレヴィン